

図書館運営の評価と指標

0. 今日の流れ

(1) めあて

- 1 「評価」の意味、手法を再確認する。
- 2 自分の仕事を「評価する」練習をする。
- 3 職場に帰ったら、今までより「評価」を意識して仕事をする。
図書館や行政全体とつなげる意識を持つ。

(2) タイムスケジュール

- ～13:45 講義
- ～14:00 休憩
- ～14:30 グループワーク
- ～15:00 発表・まとめ

1. なぜ評価が必要か

(1) 一般論として

- ・自分を知るための評価
- ・人に知らせるための評価
- ・比較も大事な手法

(2) 公共図書館の世界では

- ・職員、職場として、自分の仕事を判断するための評価
- ・行政組織内、その外（議員、住民など）に状況を知らせる義務とアピール
- ・経年変化、周辺や同規模自治体との比較により現状を把握する

究極の目的は、「住民により良い図書館サービスを提供する」ための一手法

(3) 事前課題から見えたもの

「よりよい図書館サービスの提供を目指す」目的から評価に関する研究や実践は長年あるが、「確立している」状況になっていない。指標、判断基準とも開発途上。

①「行政報告」 課題の目的よりレファレンス問題になってしまった。

地方自治法 第二百三十三条

5 普通地方公共団体の長は、第三項の規定により決算を議会の認定に付するに当たっては、当該決算に係る会計年度における主要な施策の成果を説明する書類その他政令で定める書類を併せて提出しなければならない。

全国統一で作成するが、タイトルが色々、掲載内容も色々。

タイトル例：行政報告書、歳入歳出決算に係る主要な施策の成果説明書、主要な施策の成果、主要な施策に関する説明書

4. 具体的な評価例

(1) 実施の動機

① 図書館独自 実施例

個々の事業報告
年次報告・自己評価
図書館協議会などの外部評価
指定管理者などの報告

② 行政組織 実施例

決算に係る会計年度における主要な施策の成果を説明する書類
行政評価、指定管理者評価
総合計画、子ども読書活動推進計画などの達成状況調査

(2) 評価対象

① 資料提供に関わるもの

② その他の事業に関わるもの

③ テクニカルサービスに関わるもの

④ 上記の組み合わせ

5. グループワーク

2問のうち、どちらかについて評価指標を考える。

① 中高生対象のおすすめ本のPOPコンテスト 同時開催：関係資料の展示
自作POPを集めて館内展示、コンテストをして表彰式

② 資料収集に関する業務

選書、発注・整理

6. まとめ

参考文献

- ・『図書館ハンドブック 第6版 補訂2版』J L A 2016
- ・『必携 自治体職員ハンドブック 第3次改訂版』公職研 2017
- ・『公共図書館の自己評価入門』J L A 2007